園長だより

令和７年８月１日発行
ありんこ親子保育園
園長　中嶋　悦子

今年の作品展は、『ピザ』がテーマ。毎日、ピザ作りはもちろん、お店やユニホーム、飲み物や旗など、子どもたちは夢中になって作っています。詳しくは、８月末のクラスだよりやブログをご覧ください。

さて、ありんこ親子保育園のメイン活動の一つである製作遊びですが、様々な知恵の宝庫が詰まっています。今回は、幼児教育には欠かせない空き箱等の「製作遊び」についてご紹介いたします。

子どもにとっての宝物とは

ありんこ親子保育園では、ご家庭から空き箱や牛乳パックなどの廃材をご寄付いただいております。いつもありがとうございます。いただいた廃材は他にも、プリンカップ、ラップの芯、トイレットペーパーの芯、段ボール、包装用クラフト用紙などがあり、大きなケースなどに入れて、子どもたちが取りやすいようにしてあります。お家からの廃材が届くと子どもたちは大喜び。まるで廃材が“宝の山”のように見えます。そんな宝の山から、子どもたちは自分だけの“宝物”を作り出していきます。自分で作ったもので遊ぶのは、達成感や充実感を味わうことができる貴重な体験です。この達成感や充実感が、実は子どもにとって大切な宝物なのですね。柔軟な頭と心を育てるためにも、幼児期にたくさん取り入れたい遊びです。

創意工夫ができる遊び

幼児期の遊びの中で、空き箱製作は無くてはならない幼児教育の一環と言われます。「空き箱製作は、行事よりも大事」とか、「空き箱製作を行っていない園は選ぶな」と言う専門家もいるほどです。

ありんこ親子保育園の保育士は、外部研修（千葉大学教育学部付属幼稚園の公開研究会等）や、定期的に自園でも保育研究会を行っています。製作活動は研究テーマにもなっています。

幼児期は、自分で考えて創意工夫するという体験を増やし、知恵や心の土台を育ててほしい時期でもあります。製作や造形遊びは、その構造からとても頭や手先を使った創意工夫する遊びなのです。創意工夫とは、「今まで誰も思いつかなかったことを考え出し、それを行うための良い方策をあれこれ考えること。『創意』は新しい思いつき、今まで考え出されなかった考え。『工夫』は物事を実行するために、よい方策をあれこれひねり出すこと」（三省堂　新明解四字熟語参照）とあります。大人の指示・命令が多くなれば、子どもは自分で考えることが少なくなって、指示待ち状態になることがあります。あれこれ指示・命令するばかりではなく、ある程度のことは大らかに見守り、どうすればいいか、何がしたいのかを自ら考える機会を幼児期から増やすことがとても重要です。

その他の効果

〇集中力が育つ…作りたいものをイメージしながら創造に近づける最中は、夢中になっている姿が見られます。その最中は、脳の中では神経回路が繋がっていて集中力が高まっている状態です。その最中は、あまり手出し口出ししないで、何ができるのか楽しみに見守るようにしましょう。

〇動作が身につく…紙を折る、ハサミで切る、セロハンテープを貼る、のりをつけるなど、様々な動作によっ

てできる作業が増えて手先が発達していきます。使い方を教えたら、少しずつ練習がてらやらせてみてもいいですね。

○自己表現ができるようになる…製作や造形は、子どもの自己表現にもなります。作るものは、今子どもが興味関心をもっているものだとも言えます。時にはヒーローになり切ったり、電車や車などの乗り物だったりします。食べたいもの、また行きたいところ、楽しかったことなどを絵で描く場合もあるでしょう。子どもの作品の中に一緒に入り込んで、大人も楽しめるといいですね。

○素材に触れることで扱い方を学ぶ…それぞれの素材に対し、扱い方や力加減などが養われます。正しい使い方を学んでいくことで、素材を上手に使えるようになっていくでしょう。

○応用力が育つ…様々な素材を使うことで、他のものに代用したり、ないものを探し出したりできるようになります。これは、大人になって生きる上で大切な応用力です。応用力の基礎を空き箱製作遊びの中で身につけているといっても過言ではありません。

子どもは遊ぶのが仕事

「保育園では、遊んでいるだけに見える」とよく言われます。反対から言えば、幼児期にとって遊びは最も大切な活動です。「子どもは遊ぶのが仕事」と言われるように、この「遊びながら学ぶ時期」にどのような遊びをしたかがとても重要になってきます。子ども時代は大人になるための準備の時間ではなく、子どもとして思う存分楽しむための時間なのです。子どもの頃に、自然の中や友達と遊んだ経験の少ない人が、大人になってから子ども時代と同じように遊ぶのは、とても難しくなるかもしれません。そして、この子ども時代の遊びや自然体験が、「見えない学力」を言われる「理解力」となり、小学生以降の「見える学力」や「応用力」に繋がっていくのだと思います。

例えば、船を作りたいと考えたとします。製作遊びでは、自分で欲しい材料を一から探すことから始めます。水に浮かぶトレーが欲しいと思ったときに無かった場合、今ある材料の中から代用できるものを探します。牛乳パックがあれば、縦に半分に切り船の形にして水に浮かぶことを知り（理解し）、創意工夫して代用させます。この「代用する」ということが重要で、材料がないからできない。だからやりたくない。となってしまうと、応用が利かなくなってしまいます。社会に出ると、自分で考えて、代用したり、応用したりすることが求められる場面にたくさん遭遇します。この基礎は、すでに幼児期に身に付けていくのかもしれませんね。

持ち帰った空き箱制作の処分方法

毎年、保護者様から質問されることは、「持ち帰った空き箱製作は、どうやって処分すればいいですか？」というものです。捨てられずに溜まっていく。ゴミになる。何を作ったのかわからない。など、様々なお悩みもあるかとは思いますが、子どもが一生懸命に楽しんで作った作品ですから、大人の目から見たら意味の分からないものやゴミに見えても、勝手に捨てたり壊したりせず、話を聞いてほしいなと思います。

処分方法は、年齢によっても違ってきますが、2～3 歳児さんでは、忘れたころに処分するでもいいと思います。4～5 歳児さんは、気に入っているものだけ取っておくということでもいいですし、話し合って処分することでもいいと思います。保護者さんの中には、子どもが作った作品を写真に撮っておいた方もいらっしゃいました。写真を撮っておくことで残すことができますね。いいアイデアです。それぞれのご家庭で工夫していただき、お持ち帰りになった時には、がんばって作ったことを認めていただければ幸いです。